

“わ”ふれあい

KS C 社会還元センター

ふれあい編集委員会

“わ”はわかった。講師派遣、生活文化の伝承など大上段に振りかぶっているが、実績はどうなのだ。二期生の説明会での質問だった。会の性格や実情について一口で説明し難いもどかしさといらだちを覚えた。念願の情報紙がだせるようになった。別稿のようにそれなりの活躍があるのだが、多目的、小グループだけに簡単に説明できない。年に三回程度の発行を考えているが、情報連絡、双方向コミュニケーションに役立つには、まだまだ役不足だが、とにかくうれしい。

一期生三四二人のうち委任を含めて二五三人が、昨年七月二日に設立総会を開いた。本部会の登録は一七五人。“わ”が誕生しましたのチラシを持参し、内外にアピールしたのが一〇月末。動

き出してから半年余。今年四月一六日、二期卒業生二九〇人のうち一二九人が登録し、三〇四人の大部隊になった。この間は試行錯誤の連続だったが、ようやく緒についたか。

理念と現実、社会の認識とニーズは福祉ボランティア的なものが多く、これまでの六グループに加え、福祉グループも発足した。

二期生の運営委員八人に加え、一六人で運営することになったがまだまだ課題は多い。

市の関連部局や、市社協、福祉施設の関係者などに会うと実体以上の知名度や期待度の高さにうれしいやら、

て、いやら。

試行錯誤や課題は多いと述べたが、その一端にふれた。会の設立趣意書に、カレッジの建学の精神を生かし、地域社会で中心的な役割をになうキーマンとして活動をする。「川重シルバー活動基金」の果実を有効に活用し、意義ある社会活動をする。会員は各事業単位に自主的な発意により参画するとある。

この趣旨にそって、どんな活動ができるか、いわゆる福祉ボランティアだけでなく、社会生活全般にわたり、個々人のもつ知識、技術、技能や人生の先達として後輩

創刊(はじめ)に思う

代表 福原克巳

になが伝えられるかを目指して、当面考えられるグループづくりをし、それぞれが登録した。表現はよくないが看板をかかげても客はこない。自らが動き、認めてもらうこと。

また未登録だが活動している先進者が積極的にリードして欲しい。

運営委員も実行責任者と企画委員に分け、市社協はじめ関係団体と連絡を取りながら会の独自性を発揮するようになりたい。

会の運営費の大部分を占める川重基金について一言ふれておきたい。基金の果実は低利で少ない。これを含めた助成金で運用していることを肝に銘じたい。

最後に八月に行われる全国トンボサミットはしあわせの村、カレッジを中心に行われる。在校生とともに力をあわせ成功させたい。

わわ二期生入会者の全体

部会開く

去る四月十六日(木)十時半より十二時まで、シルバーカレッジ第三、第四学習室に於いて、「神戸シルバーカレッジ(KSC)社会還元センター」グループ「わ」(以下「わ」という)に、新しく入会し二期生の全体部会が開催された。

「わ」については、すでに二月二十三日の三学年合同交流パーティ終了後に一期生の役員による説明を終えているが、二期生二九〇名のうち、「わ」については一九五名からアンケートの回答を得、一三〇名が登録した。当日は六十余名が出席した。

開会にあたり福原克巳委員長が最近の世相をまじえ、「わ」の運動の意義について次のように述べた。

バブル崩壊の影響から、エリート社会の混乱や、戦後最悪の経済状態といわれる今日、我々の世代はある意味において、得たものの大きさ、あるいは失われたものの大きさそれぞれの価値観の違いを一番よく認識している世代である。

しかしながら我々の子供たち、孫達は、

初めから恵まれた環境の中で得たものが大きく、このため失われたものに対する価値観に乏しい。そこで私達はできる限り力を尽くして何かを後世に伝え残していかなければならない。これこそが我々が目指す社会還元の意義であり、三年間にカレッジで学んで得た知識のほかに新しい交友や新しい社会形成も醸成された。

また最近、「ピオトープ」なる語がさげばれ、自然保全の立場から動植物の安定した環境を復元、維持していく運動がなされており、これはまさに人間社会における自由経済発展の過程でなされてきた自然環境破壊に対する反省から浮上したものであり、今年のトンボサミットこそがピオトープに関連する大きな動きである。

「わ」の組織・活動はただ単に一極集中的なものではなく、前述のように得たもの、失ったものの伝承・還元のみならず、学びによつて得た知識や特技を活用していかなければならない。お互いに何の拘束もなく、自由な意見でもつて活動し高齢化社会のなかで、出来る範囲のことを互いに手を携え、創意工夫しながら社会に貢献していきたい。

など「わ」としての活動指針が述べられ、新入会者に対して共同協力が依頼された。

さらに配付資料「神戸市シルバーカレッジ(KSC)社会還元センター」グループ「わ」の活動について』に基づき金川章三「わ」事務局長から、つぎのように活動にいたる経緯と各部会活動の概略説明がなされた。

「わ」の活動については当初から試行錯誤の連続で、最近にいたつて形態ができたが、これには、川崎重工(株)の一〇〇周年記念事業の一つとして基金が寄せられ、この関連をベースとして昨年七月二十二日に社会還元センター設立の準備が進められ一期生二五三名が賛同、一五〇名が部会に登録した。運営委員の選出、規約検討などを行い、さらに関係諸機関への挨拶などを経てやつと昨年十一月に動きだした。

各部会の活動状況は次のとおりである。

グループ「わ」の活動状況

平成九年三月に卒業した第一期生は地域社会への関わりを深め、在学時代からモットーである社会還元活動を継続して進めるため、同年七月二十二日に「神戸市シルバーカレッジ(KSC)社会還元センター」(後に愛称「グループわ」と命名する)を卒業生二五三名の賛同

を得て設立した。その後一五〇名が各部に登録しこの活動に参加した。

グループ「わ」の運営のために各コースより八名の委員が選出され八月八日に第一回運営委員会が開催された。その後、運営規約等各種の規約の検討、各部会の結成と会員の部会への所属、事務局の整備が行われた。

一〇月に入つて各委員が手分けをして、兵庫県、神戸市、各区役所の関係先へ挨拶まわりと今後の支援と協力の御願いに訪問した。それぞれの活動目的と今日までの活動実績は次のとおりである。

A部会（講師、指導者派遣教育、技術、技術等の分野）

「ロングステージ灘」デイサーピスセンターに対して折紙とか歌の指導をしたりクリスマスツリーの飾り付けなどをした。これからも同様の派遣指導が予定されているが、保養センターひよどりに対する講師派遣もいまままでおこなわれる。

① 社会福祉施設への講師派遣

◆ ロングステージ灘「デイサーピスセンター」

平成九年十一月十九日 折り紙、歌の指導。

平成九年十二月三日 くりスマスツリー

飾り付け。
平成九年十二月十七日 くりスマスツリーの披露。
平成十年一月二十一日 歌の指導、約五〇人参加。

◆ 保養センターひよどり
平成十年三月六日 「グリーンスクール趣味講座」へ「旅の話」講師派遣。

② 定期的講座などへ講師を派遣。
◆ 実施しているもの。
「しあわせの村日本庭園」において、煎茶・茶道のおもてなし 毎月一回、

「神の谷地域福祉センター」において、男の料理教室 毎月一回。
◆ 今後実施を予定しているもの。
「ロングステージ灘」において、折り紙・音楽の指導 毎月一回、習字・読み聞かせ・体操の指導 毎月二回、フラワーアレンジメントの指導 毎月一回。

「保養センターひよどり」において、絵手紙 四月、煎茶 五月、木工 六月。
その他五十五歳以上の男女を対象として二泊三日の健康講座。

B部会（懐かしい昔遊び指導等により生活文化伝承の場を演出）

① しあわせの村での指導
平成九年八月三日 第七回しあわせの村祭り、昔遊びのコーナーを運営。二十五名参加。
平成九年十月四日 第五回福祉、健康フェアで出店。

平成十年三月十四日 十五日 しあわせの村での「野外オートキャンプ・フェスタ」に参加。野外で木の実、松ボツクリ、小枝などを使って、クラフト方法を指導したが、延べ四〇名が参加した。

② あおぞらクラフト室及び窯場での実績

◆ 陶芸同好会の指導。

◆ 石ころに絵描き・木片キーホルダー・木の实クラフト・割り箸鉄砲・くるくるやじるペー等の製作指導。

③ その他「ロングステージ灘」デイサーピスへのボランティアはA部会と共同して実施した。

C部会（地域のグループ活動に仲間入りしたり、イベント等の企画運営をする）

◆ 人形劇の公演。

平成九年十一月六日 鈴蘭台幼稚園。
平成九年十一月二十八日 市立王塚台保育所。
平成十年二月七日 学が丘幼稚園。

平成十年三月十三日 篠原福祉会館。

平成十年三月二十三日 唐櫃台幼稚園

◆煎茶のサービス。

平成十年二月十四日 しあわせの村の

日本庭園茶室。七〇名参加。

◆「ロングステージ灘」で盛大にイベ

ントを開催。



催しコーナー 人形劇・邦楽演奏・み
んなで歌おう・手品・銭太鼓など。

体験コーナー 染色・折り紙。

飲食コーナー ぜんざい・おでん・コ

ーヒー・クッキー・お抹茶など。

参加者一七〇名を超える盛況となり。

催し物は熱演、飲食コーナーは好評売

り切れとなつて、貴重な経験を持つた。

(この間四回にわたりロングステージ

灘側と詳細打ち合わせを行った)。

D 部会 (在日外国人に日本の生活習慣

言葉の指導、家庭への招待など

の企画と実践活動をする)

左記の四つのグループを設けそれぞれ

独自の企画をするが、活動としては全

員協力して実行してゆくことを基本方

針としている。

①日本人の生活習慣についての啓蒙。

外国人観光客などのホームヴィジッ

トの受け入れ。

②外国人支援のためのバザー計画実施。

③外国人への日本語教習ボランティア。

④外国人との交流、イベントの計画実

施。

活動の実績

①来日難民への支援

平成十年一月十六日

元気がわいてくる音楽会 資金獲得

のためコーヒーとクッキーを販売。

平成十年一月十八日

しあわせの村太鼓まつり 同様販売

②ベトナムの子供達に勉強を指導 〓

「わ」結成以前より鷹取教会で教えて

いたものを継続して実施している。

③外国人への日本語教育のため、KF

C 日本語ボランティアの会に登録。

現在ベトナム人に日本語を教える。

④外国人との交流 〓 イベント計画中

⑤須磨区内の寺社旧跡などの和英対訳

ガイドブックを外国人向けに作成中

である。

E 部会 (調査研究 〓 身近な環境調査や

研究成果を市民に還元する

活動を企画運営する)

第九回全国トンボ市民サミット神戸大

会が、八月二十二、二十三日にしあわせ

の村内で開かれることになつていますが、

これにはE部会だけではなく、グループ

「わ」全体で参加協力する。神戸大会の

実行委員会には、これまでに「わ」から

五人が参加し財務、企画、総務などに属

し九回出席している。

大会はシルバークレッツを会場にして

行われるので、当日の展示・企画および

会場の設営・運営など「わ」全体の協力

を御願ひしたい。

①これに関連した事業として、記念

誌「しあわせの村の自然」(A5)

版多色刷り、四〇ページ）約五千部、八月発行の予定。

② 当部会による「環境用語辞典」を作成、類書が多いが、専門的なものや古いものが目立つので、最新情報を取り入れたわかりやすいものを目指している。（対象を中学、高校生として、完成は五月末の予定）

F部会（広報・出版Ⅱ各部の地域活動の記録作成など）

① しあわせの村、緑地課の依頼を受け村内の薬草園で栽培された「こんにやく」について、その歴史、分布、栽培、料理方法、効用など、特にカレッジの学生が、この「こんにやく」を使って実際に教室で食品加工し調理したことなど、記事にして編集、四月に完成した。（右下の図はその表紙）

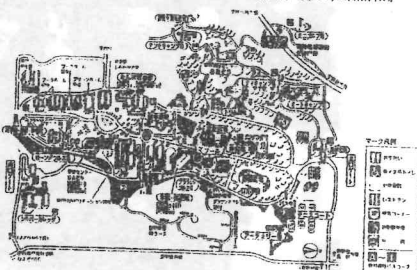
しあわせの村で行われたハッピーホリデイ（五月五日）では、植物探索会に参加の来村者に配布した。

② カレッジ情報誌のページを「わ」のPR用に割り当ててもらおう。

③ グループ「わ」の会員に対し情報誌「わ」ふれあい」を年に二、三回発行する。



スポーツに親身に、リフレッシュアワーに…… 組合せ、楽しみ方は自由自在。



G部会（福祉関係のボランティア活動

◆カーボランティア

① 須磨ボランティアセンター関係

i. 平成九年十一月五日

南落合仮設住宅―兵庫病院往復。

ii. 平成十年二月六日

脑梗塞後遺症のための歩行困難

者に、カーボランティアを開始

② 兵庫ボランティアセンター関係

要請のあつたカーボランティアは、

三件あり、現在そのうち二件を検討

中、出来れば四月から実施の予定。

本部会はカーボランティアと通院、介助

のグループに分かれて、二月に発足した

ばかりであるが、関係先からの要望も多く、また部員参加の希望者も多数あるので、今後の活躍が期待できる。

◎ご寄付二件のおしらせ

① 金二万円（九八・五・二二）

仮設住宅より引越された方から、お手伝いボランティアをした「G部会グループ」の好意を謝して、「がんばろう！神戸」を通じ、北区善意銀行に振り込んで頂きました。元来無報酬が建前の「わ」ではありますが、有り難く頂戴し、さらに我々の活動に役立てます。

② 金一万四千元（九八・五・二二）

平成九年度総合芸術コース・三学年合同交流パーティー実行委員会殿

いずれもご浄財を頂戴しましたことを有り難くお礼申し上げます。

トンボサミットのイベント参加

トンボサミットの予定について簡単に述べらる。



八月二十二日バスによる見学会が三コースで行われ、一方シルバーカレッジでは、「神戸のトンボ」と題して青木典司氏による夏期大学講演の他、ロビーでは各

種展示、教室では手作り教室・映画・野外では広場イベントや屋台など、午後はコーラス・銭太鼓・諸芸等楽しいイベントがいろいろ催される。

八月二十三日「当カレッジでトンボサミット実行委員会、河合雅雄氏（兵庫県立・人と自然の博物館長）による基調講演、各分科会（環境学習、市民の環境保全活動、都市と「農」）の活動発表とパネルディスカッションおよび全体会議として、各分科会報告、「わ」のコーラスによるアトラクションが行われる。

現代傀儡師物語

人形劇に魅せられてもう三年になります。今でもふと何故人形劇をと、自分に問いかける時があります。

日本の人形劇の起源といわれている、奈良時代の傀儡師による門付け演芸に対する郷愁か、それとも変身願望への憧れなのか、やはり自分でもよく判らないのです。

今では素人でも人形劇に取り組むグループが沢山あり、私達の「ほたる座」もその一つです。

震災後、何か息永く続けられ夢のある

ボランテニアと考えていた私達は、仕掛け人のY女史に乗せられ発足したのに、さつさと逃げられ予期せぬ船出となりました。



友人や女子大生に手ほどきを受け、徐々にそれらしく成つてきたのは、熟年集団のバイタリテイとチームワークの良さではないでしょうか。

このごろではプロと接する機会も増え、そこは年の功で遠慮せず指導を受ける事ができるようになりました。

難点は年には勝てず台詞を覚えることが不得手で公演前に練習は欠かせません。少しでも完成度の高い舞台をお見せしたいというのが、「ほたる座」のポリシーです。

「ほたる座」は我が国でも珍しく座員が高齢者で結成されているので、加齢との競争は避けられませんが、“継続は力なり”を信じて、これからも新しい演目にチャレンジを続けていきます。これほどまでに私達を駆り立たせるエネルギーは何なのか？ それは人形劇を通じて子供達や高齢者との交流で得られる充実感と心の安らぎではないでしょうか。

お客様の笑顔と拍手と“また来てね”との暖かなピロッドの声に励まされ感謝をしながら、現代の傀儡師は東や西の幼稚園、保育所、地域福祉センターや施設へと行脚を続けています。

（「ほたる座」胤帥武宏）

春一番

みんなで「わ」に
なるう（C部会）

部会活動の第一歩として、大石高齢者介護支援センター「ロングステージ灘」で平成十年三月二十九日にイベントを開催し、地域交流のお手伝いをしました。



参加者はセンター在住の方々約百人、近所から七〇人と、大変な盛況になりました。イベントは前掲のC部会活動状況にも記していますが、催し物・模擬店・体験コーナーと盛り沢山な内容でした。

◎催し物は「わ」の参加ベテランが出演。

☆人形劇は「しまうまのシャックリ」。

☆邦楽は 民謡と童謡。

☆いつしよに歌いましようでお客も一緒に大合唱。

☆マジック（手品）。

☆銭太鼓は「新しげさ節」「河内男節」。

などなど二時間あまりを会場は大変な熱気に包まれました。

◎模擬店では、薄茶席が設けられ、また

コーヒー、ぜんざい、おでんなどが販売されて、これ又大人気でした。

◎体験コーナーでは

「和紙染色」に興ずるお客さんも沢山

でした。

催し物はいずれも大熱演！模擬店ほどの店も大盛況で品切れとなる程で、お客

さんは十分満足された模様でした。

体験コーナーでは、手作りのことでもあり、遅くまで楽しんでおられる様子に見

受けました。

このイベントでは、シルバークレジット

の在校生の皆さんも、応援に駆けつけて

くださり、総勢では五〇名を越える大勢の方々有意義なボランティア活動をしていただく結果になりました。勿論ロングステージ灘の職員の方々のご支援の賜物でもあります。

このイベントを通じて、我々グループ

“わ”の仲間も貴重な体験を得ることが

できたと思っております。

当日はさいわいにも天気めぐまれ、

ロングステージ灘側の支援と参加者の協

力、グループ“わ”の皆様の奉仕で、大

成功のイベントであったと自負していま

す。皆さんのご協力を心から感謝します。

(C部会 森 嘉紀)

編集後記

★会員諸氏への情報発信の場が、ようやく持てるようになりました。

★集まったF部会のメンバーは在学時代、カレッジ情報誌をつくっていた

一騎当千のベテランばかりです。

★創刊号は各部会の活動紹介などで、

記事が少しかたくなり過ぎました。

★次号はもつとおもしろく読んで頂けるようにしたいものです。

★会員の皆様からも振るってご投稿をお待ちします。

K S C 社会還元センター グループ“わ”入会者

1. 入会者数

平成 9年3月卒業1期生	175名
平成10年3月卒業2期生	129名
合 計	304名

2. 部会別登録者数（複数登録あり） (名)

	部 会 名	1 期生	2 期生	計
A	講師指導者派遣活動部会	26	33	59
B	生活文化伝承部会	52	29	81
C	地域活動企画、参加部会	24	24	48
D	外国人支援部会	29	20	49
E	調査研究部会	22	17	39
F	広報、出版、よろず相談部会	16	5	21
G	福 祉 部 会	48	14	62
W	所属部会未確定者	14	19	33
	合計	231	161	392

K S C 社会還元センター運営委員名簿

役 職 名	氏 名	役 職 名	氏 名
委 員 長	福原克巳	企画委員 (C)	波多政一
副委員長 (B)	藤井 淨	企画委員 (D)	内海尚枝
副委員長(A,D)	小倉久好	企画委員 (D)	中谷鶴代
事務局長 (F)	金川章三	企画委員(E,F)	小島 哲
企画委員 (E) (財務)	板谷圭介	企画委員(E,F)	松井 孝
企画委員 (A)	藤原俱子	企画委員 (F)	横田 穰
企画委員 (A)	富山節子	企画委員 (G)	胤艸武宏
企画委員 (B)	半田玲子	企画委員 (D)	菊 聡一
企画委員 (C)	森 嘉紀	事務局スタッフ	飯井冴子

備考：役職名に付属するアルファベットは、所属部会を示す。